

『崇峻天皇御書』

蔵の財よりも身の財すぐれたり。身の財より心の財第一なり。此の御文を御覧あらんよりは心の財をつませ給ふべし。(御書一一七三頁)

十月に入って漸く秋らしい空になってまいりました。今年の夏は暑かったのが涼しかったのかよく分からないままに過ぎたように感じます。記憶に残るのは、台風が多かったこと、それも今までにはないコースであったこと、また多くの被害が出たことです。その原因として、異常気象がいわれ、地球温暖化が問題にされます。

地球温暖化対策として、パリ協定が今年の十一月四日に発効の運びとなったことが新聞等で報道されております。

ところが、世界第五位の地球温暖化ガス排出国である我が国は、国会での批准が遅れ十一月七日にモロッコで開催される批准国・地域による協定のルール作りに参加できない状況にある、とのこと。

では、現在開かれている臨時国会で何故批准できないか。それは、安倍首相の「TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)」優先の政治思想があるからだ、といわれております。つまり、地球温暖化よりも経済を優先する政治思想が安倍首相であり、それを指示するのが私たち日本人である、ということが見えてまいります。

かつて、「エコノミックアニマル」と日本人は呼ばれたことがあります。言葉の初出は一九六五年(昭和四〇年)にパキスタンのブット首相だそうです。意味は、経済的利益を追い求める動物の意で、昭和四〇年代、国際社会における日本人の打算的・利己的な態度を皮肉った言葉、と辞書にはあります。けっしてよい言葉ではないと思いますが如何でしょうか。それから五〇年後、二一世紀になっても私たち日本人の本質は変わらないのでしょうか。

先の参議院選挙では、民進党などは憲法の改正問題を前面に出しておりました。一方の安倍自民党は経済政策を前面に出しておりました。結果はご承知の通りです。ここにも、経済優先の姿が見えるように感じます。

確かに、生きて行く上でお金は必要不可欠です。特に今日の日本では。誰しもお金優先に傾くのは致し方のないことなのでしょう。そのような弱い心を利用して勢力を拡大し、政治を欲しいままにしているのが、安倍首相率いる自民党や公明党に見えます。

日蓮大聖人様は、四条金吾に与えた、『崇峻天皇御書』の中で、私たちにとって、心の財が第一であり、心の財を積むことを教えて下さっております。では、

お金よりも大切なのが心の財である、地位や名誉よりも心の財が大切である、と仰せになる「心の財」とはどのようなものでしょうか。

ヒントになるかも知れません。総代さんご夫婦とウランバートルに出張し、感じたことを述べます。

モンゴルは相撲ばかりではなく経済的な発展を遂げつつある国です。十年前には車といえば日本で廃車になったようなものばかりでした。最初の訪問で、クロネコや飛脚の絵が描かれたおなじみのトラックを目にした時、偉いもんだ、ここまで宅配便は来ているのか、と感心しながら、次ぎに通りがかったマイクロバスを見ると、「くるみ幼稚園」と書かれております。その次のバスには「こじか保育園」とあるではありませんか。ここでやっと日本で使われなくなった車をそのまま使っていることに気づきました。最近はそのような車は走っておりません。反対に、私が乗っている車よりも新しいトヨタやホンダの車が町を埋め尽くし、渋滞は日本の比ではありません。ただ、渋滞が発生するのは、道路が整備されていないからであり、人々の懐が急に豊になったからではありません。今でも多くはバスを利用し、近くなれば歩いて移動するのがあたりまえの生活です。

夕刻、すでに寒くなった中でバスを待つ人たちの顔には、とげとげしさはなく笑顔さえあります。舗装されていない歩道を歩く人たちの顔にも、暗さや憂鬱は微塵もなく余裕さえ感じられるのです。一方、東京の町を歩いていると、早足で真っ直ぐ前を向いて通り過ぎていきます。ぶつかっても謝るようなこともなくそのままです。電車の中でも、スーパーでレジに並んでいる時も表情は一樣で、能面のようにさえ思えます。

発展中とはいえ、経済的にはけっして恵まれているとはいえないウランバートルの人たちに余裕を感じ、経済大国の住人である私たちが、あくせくと日々を過ごしているように感じるのは、自身の境界がそうさせているのでしょうか。

「蔵の財」と「心の財」を対比して考える時、両方に恵まれるのが一番であり、そのようになりたいと願うのは間違いではないと思います。ただし、どちらが先か、と考える時には、答えははっきりしております。心の財を積むことを第一にすれば、やがて身の財も蔵の財も積むことができることを信じようではありませんか。

【今月の十二日は本門戒壇の大御本尊建立の日】

心の財を積むためには、罪障を消滅して清浄な命になる事が第一歩です。そこで、大聖人様が「登山参詣には過去世から積み重ねた罪障を消滅する功德が

具わる」と御書で示されます。その根本である本門戒壇の大御本尊様が建立されたのが今月の十二日です。十三日は大聖人様が滅不滅の相を顕された日です。滅不滅とは滅して滅せずの意で、肉身の日蓮大聖人様としては入滅されましたが、末法のご本仏としては厳然としてこの娑婆世界に常住され、私たちを見まもって下さっていることです。

御本尊様に大聖人様の魂を留め置かれたことは「日蓮が魂を墨に染め流してかきて候」との仰せからも明らかです。その御本尊様の中でも、第一の御本尊様が本門戒壇の大御本尊様です。それは、立宗から二十七年目にあたる弘安二年十月一日に著された『聖人御難事』に本懐を遂げられるべき時に至ったことが述べられ、日興上人が日目上人に遺された、『日興が跡条々の事』には、「日興が身に宛て給はる所の弘安二年の大御本尊は、日目に之を相伝す。本門寺に懸け奉るべし」と認められております。『聖人御難事』の、本懐を遂げられたのが弘安二年十月である、との大聖人様の御言葉と、日興上人の弘安二年の大御本尊とお言葉から、日蓮正宗総本山大石寺の奉安堂に御安置の弘安二年十月十二日に御図顕された御本尊様が、大聖人様の御本懐成就の御本尊様である事が明白です。

ゆえに、総本山二六世日寛上人は弘安二年の大御本尊様を「本懐中の本懐、究竟の中の究竟」と御教示になっております。

このような筋道がはっきりとしておりますから、「私たちは三大秘法の随一、本門戒壇の大御本尊様と拝して常に御開扉を願い自らと周囲の人たちの罪障消滅を願って登山参詣をするのです。

お金より心、と頭で分かっている、いざとなればお金に向かうのが私たち凡夫の常です。ただし、その一瞬に「心の財を積みましようね」と大聖人様の御言葉がよぎる人と、そのようなことは全く思わない人とでは「財の価値」が違ってきます。換言すれば、お金に使われる人と、お金を使える人の違いでしょうか。この違いは大きいといえます。

日々の生活の中に、御書の一節、大聖人様の御言葉を想い、豊かな今生を築いてまいりましよう。

澄み渡った秋空のような心を目指してご精進ご精進。

ご無沙汰しております。

皆様お変わりありませんでしょうか。

ただいま、交換留学制度を活用し、ドイツの Wiesbaden という都市（フランクフルト近く）に住み、European Business School にて勉学に勤しんでいます。

昨日、御住職様のご紹介でドイツのフランクフルト法華講総会に参加してきました。

パリ信行寺の中野御住職ご指導のもと、ドイツ各地から法華講員が集まり、勤行、各地（ヘッセン、ミュンヘン、ハンブルク、ベルリンなど）決意発表、体験発表、中野御住職法話、昼食会が執り行われました。中には、スイス、シンガポール、そしてたまたまガーナからお越しの方もいて、総勢約40名の盛況な会となりました。

体験発表は全てドイツ語だったのでほとんど理解できませんでしたが、熱意と信仰に対する想いが伝わってきました。勤行も皆さんお上手で、日本のお寺となんら遜色ない様子でした。

私の隣町の Mainz に信者の方がいらして、今後、お家で勤行を一緒にやることにしました。イギリスにきてからこれまで一人でやってきたので、とても心強く感じました。

Hさんという日本人でこちらに住まれている方が昨年十一月に仏乗寺に参詣したらしく、皆様によろしくお伝えくださいとのことでした。取り急ぎご報告まで。

Mさん

『昔ばなしからまなぶ』

Iさん

ある村に仲の悪い嫁姑がいました。姑がいつものように嫁の悪口を言っていますと、庄屋さんに鏡を見せられました。鏡をのぞくと、そこに映っているのはオニババのような形相で悪口を言っているみにくい自分の顔がありました。

びっくりした姑は一生懸命笑顔をつくってみました。すると別人のような・いい顔・のおばあさんがでてきたのです。

庄屋さんは「その・いい顔・の方でお嫁さんと接しなさい」と教えました。家に帰った姑は、鏡を見て四苦八苦しなながら・いい顔・をつくり、嫁に話かけました。すると嫁も同じ・いい顔・で話を聞いてくれたのです。気をよくした姑は、今度は隣に住む仲の良い姑に「どうしてそんなに仲が良いのか？」と尋ねてみました。すると隣の姑は「悪いものばかりだから仲良くなるんじゃよ」と言うのです。「はてどういう意味じゃろう」と考え考え帰ってきました。家に帰ると嫁が茶わんを洗っているので手伝おうと手を出したところ、茶わんがすべり「ガチャーン」とものの見事に割れてしまいました。「おまえがちゃんとおかないからじゃ！」と怒ろうとした時、ふっと隣の姑の話を思い出したのです。「私が悪かったよ、ごめんよ。けがはなかったかい」、姑はそう言ってみました。すると嫁も「いいえ私が悪いのです」嫁と姑は互いに自分が悪い悪いと言い合い、やがては手を取り合い笑い出してしまいました。(姑と鏡と悪者ぞろいより)

相手があることですし自らを諫めるのは勇気がいることです。それに性分はなかなか変わりませんが御本尊様に向かって唱題していく中で少しずつでも変わるのであれば有りがたいことです。

先日お寺に伺った時、ある御婦人 Yさんと御住職様の会話が何気に聞こえてきました。御婦人もご住職様も何かあったらしく私が悪かった、いいえ私が悪かったと詫びて笑っていらしたのを見聞きしまして

「あっ！悪いものがある。」と、この昔話を思い出しました。